

立教 187 年四国ブロック大会 教育講演

講師である山西弘朗氏（撫養部属城内分教会教人・香川大学非常勤講師・海外伝道部元部員・台湾政治大学大学院民族学研究科修士課程修了・東京外国語大学大学院博士課程単位修得満期退学）ご自身の台湾留学における気づきと学び、日本統治時代前後の歴史と日本による教育、『すきっと』19号での飯降政彦表統領と李登輝総統との対談などを手がかりにして、日本と台湾の深いつながりを分かりやすく話されました。

☆

【 教育講演会レジュメ 】

「台湾は日本のカガミ～台湾の教育から見える日本～」

香川大学 非常勤講師

山西弘朗

1. はじめに～私と台湾のかかわり～
 - ・ アメリカと台湾に留学して
 - ・ 台湾での日本語世代の先住民（原住民）との出会い
2. 最近の台湾と日本との交流
 - ・ 人的往来
 - ・ 建造物
3. 台湾の社会と歴史
 - ・ 台湾 400 年史？
先住民の存在
 - ・ オランダ（スペイン）、鄭氏政権、清朝による統治
 - ・ 日本による統治と教育（近代的国家として）
 - ・ 戦後の混乱と中国国民党による独裁政治
 - ・ 国連脱退と国際的孤立
4. 日本統治下の教育と「日本精神」という語り
 - ・ 李登輝総統のインタビューから
 - ・ 蔡焜燦^{さいこんさん}著『台湾人と日本精神』から
5. 台湾を日本のカガミとして
 - ・ 民主化後の教育～「認識臺灣（台湾を知ろう）」～
 - ・ 国際化と多元化
 - ・ 日本が台湾から学ぶこと～日本と台湾が手を携えて～

☆

後日のものも含めて、集いの会員からの感想を紹介します。

「お話の中で “日本精神、に出てきた『実践躬行』は、まさに年祭活動の最中にある私達の背中を押されたように強く思う」

「台湾が親日国だとは知っていたが、日本人がダムを建設したり橋を架けたりして国づくりに貢献したという歴史は初めて知った」

「台湾の留学生が近所にいてよく見かける。まるで日本人のように礼儀正しく振る舞うので、なぜかと思っていたが、その理由が分かった」

「台湾が親日国なのは、戦後日本に替って支配した国民党政権による独裁政治がより酷いものだったと捉えられているからという歴史の流れを初めて知った。植民地時代に日本人を作る同化政策をとったことが良くも悪くも現代に響いているなと感じた。」

一般参加者からは、

「姑が花蓮県で生まれ育ったので子供の頃の話をよく聞いた。その当時の客観的な社会情勢が分かり、懐かしく思い返した」

という感想が聞かれました。

